

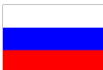
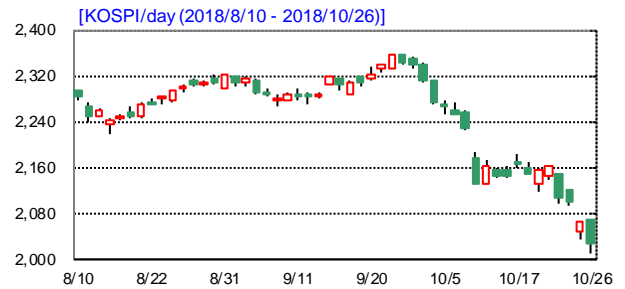


【韓国】 総合指数は週間で6.0%安と4週続落、1年10カ月ぶり安値を更新

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で6.0%安と大幅に4週続落。週明け22日は中国株の大幅高を好感し、続伸して週の取引を始めたものの、その後は4日続落。連日で年初来安値を更新した。23日は2.6%の大幅安となり、24日に節目の2100ポイントを割り込むと、25-26日も1%台後半の下げ。中国株の大幅反落や米国市場の急落といった外部環境の悪化に加え、韓国の7-9月期の国内総生産（GDP）成長率が市場予想を下回ったことも嫌気された。米国のハイテク株安が波及し、サムスン電子やSKハイニクスなどのハイテク主力株に売りが膨らみ、下げを主導した。26日終値は2016年12月以来、約1年10カ月ぶりの安値を更新。今週は反発狙いの買いが入りやすい状況か。31日に鉱工業生産、11月1日に物価統計が発表される。

▼指数チャート

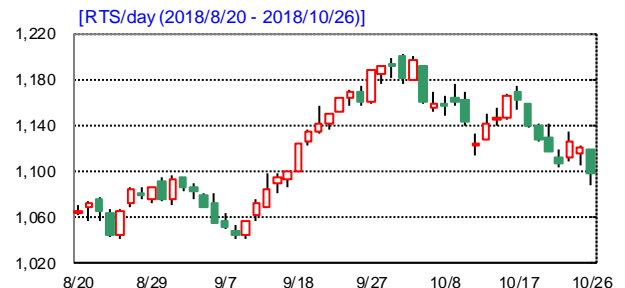


【ロシア】 RTS 指数は週間で2.5%安と4週続落、今週は押し目買いが優勢か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.5%安と4週続落。米国とサウジアラビアの緊張が高まったことで地政学リスクが意識されたほか、原油相場の下落も資源・エネルギー株の比率が高いロシア株の重しになった。指数は週明けから軟調に推移し、前週の17日から23日まで5営業日続落。週半ばには米国が短期的に対ロ経済制裁を追加しないと表明したことで反発する場面もあったが、週後半は続落。中東の地政学的リスクの高まりや原油安が嫌気されたほか、米国株が大きく下落したことで世界的にリスク回避の流れが強まった。個別では、ノリルスク・ニッケル、ガスプロム、ノヴァテクなどの資源・エネルギー株が大きく下落し、指数の重しとなった。今週はサウジ情勢の進展や原油価格動向をにらみつつも、押し目買い優勢か。

▼指数チャート

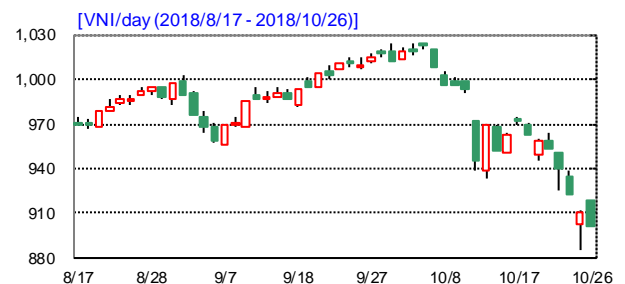


【ベトナム】 ベトナム指数は6.0%安と大幅に4週続落、今週もリスクオフの展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で6.0%安と大幅に4週続落。世界経済の減速懸念が高まる中、業績のピークアウト感が強まった米国株の大幅な下落を受けて世界的に株安が進み、ベトナムにも波及した。サウジアラビアの外交的孤立や英国のEU離脱交渉、貿易摩擦をめぐる新たな懸念といったさまざまなマイナス材料が嫌気され、VN 指数は約3カ月ぶりの安値を更新。原油安や米国発の世界的株安が投資家心理を冷やし、指数は前週の18日から26日まで7営業日続落。23日からは4日連続で前日比1%超の下落となった。個別では不動産のビンホームズや金融のベトナム投資開発銀行が週間で2桁安となったほか、ベトナム石油公社も約7%下落し、指数を押し下げた。今週は世界的な株安の流れを背景に引き続きリスクオフの展開か。

▼指数チャート

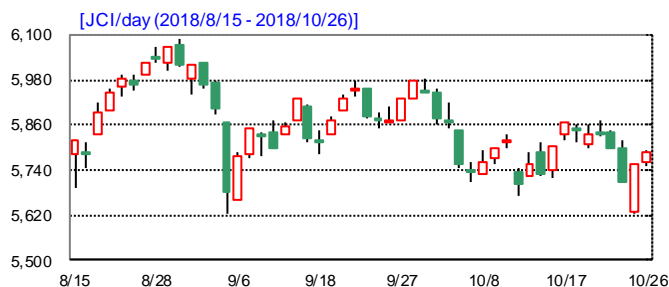


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%安、中央銀行が経済成長見通しを下方修正

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%安と 3 週ぶりに反落。週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 22 日は小幅ながら 3 営業日ぶりに反発したものの、23 日は中央銀行が金融政策決定会合後の声明で、7-9 月期の経済成長率がこれまでの予想を下回るとの見通しを明らかにしたことが嫌気され反落。政策金利は市場の予想通り 5.75%に据え置かれた。24 日は世界的な株安の波及で指数は終値で前日比 1.5%安と続落したが、その後はテクニカルな買いに支えられ、週末まで続伸した。今週は 1 日に 10 月の CPI が発表される予定。外部要因では中国の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI が注目される。

▼指数チャート

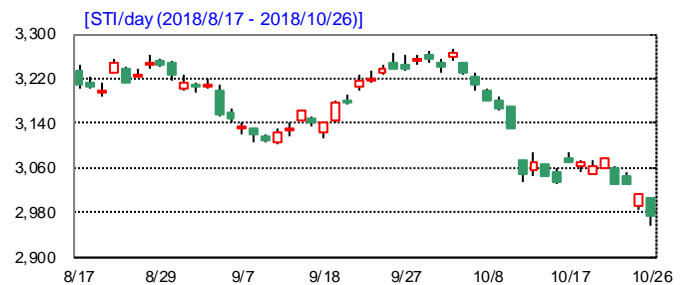


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.0%安、今週は 3000 ポイント回復に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 3.0%安と 4 週続落。さえない値動きが続き、週後半に節目の 3000 ポイントを割り込んだ。週初の 22 日は 3 営業日ぶりに反発したものの、23 日は世界的な株安を背景に売り優勢の展開となり、指数は前日比 1.5%安と反落。24 日は小幅に買い戻されたが、25 日は前日の NY ダウが大幅下落した流れを引き継ぎ反落すると、26 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 0.2%減と市場予想の 3.5%増から下振れしたことが嫌気され、指数は終値ベースで前日比 1.4%安と 17 年 1 月以来の安値を更新して取引を終えた。今週は 2 日の取引終了後に 10 月の製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート

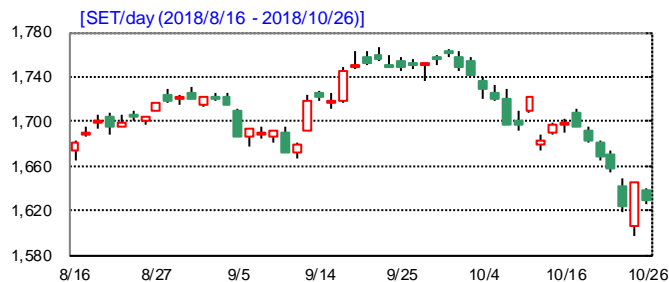


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.3%安、原油価格下落で 3 カ月半ぶりの安値を更新

SET 指数は 4 日間の取引で 2.3%安と 4 週続落。総じて軟調な値動きだった。週初の 22 日は 9 月の輸出額（通関ベース）が自動車関連部門の低迷を受けて前年同月比 5.2%減と 1 年 7 カ月ぶりにマイナスに転落したことが嫌気され、指数は 4 営業日続落。祝日を挟んだ 24 日は原油価格が下落した影響でエネルギー株が売られ、前営業日比 2.1%安と 3 カ月半ぶりの安値を更新した。一方、25 日は 7-9 月期決算で増益だった PTT エクスプロレーション・アンド・プロダクション (PTTEP) が指数上昇をけん引し 1.3%高と反発したが、26 日は再び反落して引けている。今週は 1 日に 10 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

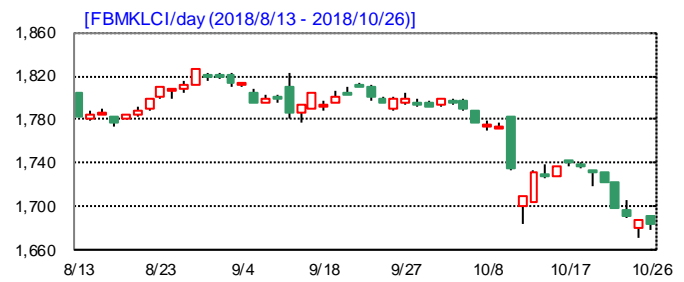


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.8%安、今週は 2 日に来年度予算案発表

クアラルンプール総合指数は週間で 2.8%安と反落。財政赤字拡大の見通しを受け前週後半から下げ止まらず、週末まで 7 営業日続落と低迷した。週初の 22 日は通信株が下げを主導。23 日はサウジアラビアの孤立化や英国の EU 離脱交渉難航などの外部要因が嫌気され、指数は前日比 1.4%安と約 3 カ月半ぶりに終値ベースで節目の 1700 ポイントを割り込んだ。その後も買い材料に乏しく じりじりと下値を広げ、軟調な値動きが続いた。今週は 2 日に 19 年度政府予算案が発表される予定で、内容次第で株式相場に波及しそうだ。前週末に一時、為替相場場で急速に進んだ米ドルに対するリンギ安の動向も注目さ

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。